

令和7年度病虫害発生予報第11号（3月予報）概要表

令和8年2月27日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 麦</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) アブラムシ類		やや多
(3) ムギダニ		並
<u>2 トマト（冬春栽培）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) 葉かび病		並
(3) 黄化葉巻病		並
(4) コナジラミ類		やや多
<u>3 きゅうり（冬春栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		やや多
(3) 灰色かび病		並※
(4) アザミウマ類		やや多
(5) コナジラミ類		多
<u>4 いちご（本ば）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) ハダニ類		並
<u>5 茶</u>		
(1) カンザワハダニ		並
(2) チュウゴクアミガサハゴロモの防除対策		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 7 年度病虫害発生予報第 1 1 号（3 月予報）

令和 8 年 2 月 2 7 日
埼玉県病虫害防除所

1 麦

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○2 月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・窒素質肥料の過多は多発生の原因となるため、生育に応じて適切に追肥する。 ・「あやひかり」や「さとのそら」では、多発する恐れがあるため、早期発見に努め薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	やや多	○2 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・テントウムシ類等の捕食による密度低減効果を高めるため、天敵の温存を心がける。 ・気温が高く雨が少ない気候が続くと急激に増加するため、速やかに薬剤による防除を実施する。
ムギダニ	並	○2 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・麦踏みは生息密度低減効果が高いため、茎立前までの麦踏みを徹底する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並※： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 多***： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○2 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量 はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○2 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量 はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	並	○2 月中旬の発生量：並 □3 月のコナジラミ類の予想 発生量：やや多（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	やや多	○2 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫は黄化葉巻病を媒介するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○2 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
うどんこ病	やや多	○2 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	並※	○2 月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	やや多	○2 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	多	○2 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・購入苗の場合は、到着時に病害虫の発生を十分確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 いちご（本ぽ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○2 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○2 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・草勢の衰えや過繁茂により発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○2 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（+）	・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見及び初期防除に努める。
ハダニ類	並	○2 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（+）	・乾燥と気温上昇に伴い急増しやすいため、温湿度管理に注意する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 茶

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	並	○2 月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：やや多 (+) □気象予報：気温は高い、降水量 はほぼ平年並 (+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・春整枝前に茶園の裾部または茶畝の南側や西側の日当たりの良い場所を観察し、寄生葉率 20%以上であれば、速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
チュウゴク アミガサ ハゴロモ			・本虫のふ化は 3 月下旬頃に始まると予測されるため、11 月 13 日に発表した防除情報(参照 2) を参考に、産卵された枝の切除やテープでの被覆を行う。 ・産卵部位を切除した場合、切除した枝をほ場内に放置すると、気温の上昇により切除した枝からも幼虫がふ化する可能性が高いので、枝を地中に埋没する等、適切に処分する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」(令和 7 年 11 月 13 日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

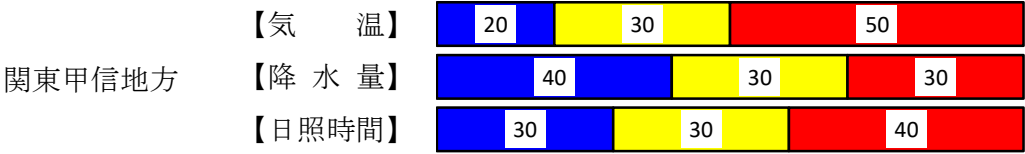
- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和 8 年 2 月 26 日発表)
出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

＜予報のポイント＞

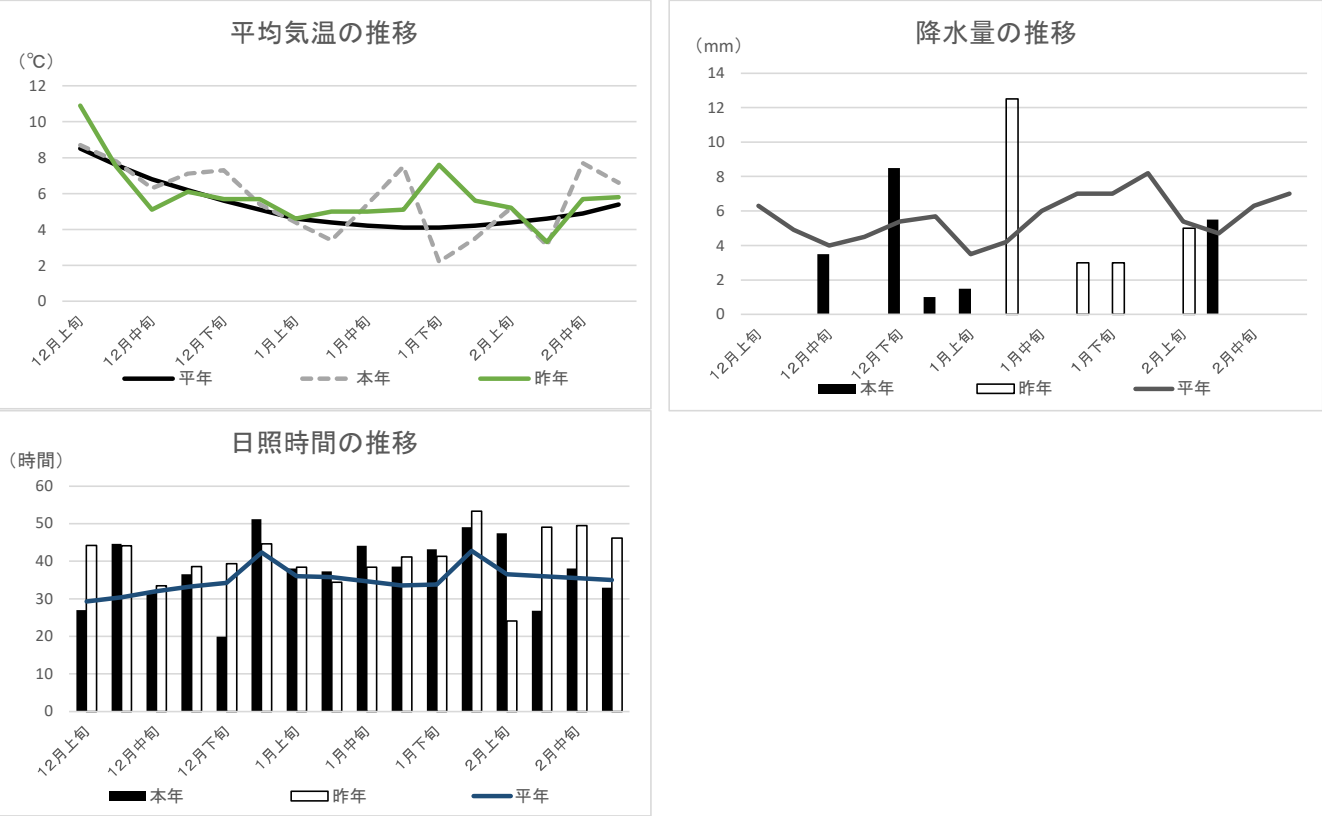
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・昨年 1 1 月中旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。向こう 1 か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性があります。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



凡例： ■ 低い（少ない） ■ 平年並 ■ 高い（多い）

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間（熊谷）



問い合わせ先
埼玉県病虫害防除所
〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>